

高木復興大臣ぶら下がり記者会見録
(平成27年10月27日(火) 16:33～16:38 於) 福島県会津若松市)

1. 発言要旨

本日は、扇町1号公園応急仮設住宅、城北町団地、大熊町役場会津若松出張所を訪問させていただきました。

渡辺町長と意見交換をさせていただきましたけれども、その中で、町の96%が帰還困難区域で、復興には時間がかかる、復興事業に対して長期的な予算の確保、不足する人材支援をお願いしたいという話がありました。

また、大熊町で第2次復興計画を策定した。復興公営住宅やイノベーションコースト構想の実現など、大川原地区の復興拠点整備をお願いしたいという話もお伺いしました。

また、高速道路の無料措置の延長、大熊インターチェンジの整備等関連町道整備、中間貯蔵施設の早期整備を要請されました。

そんなお話をいただきまして、私からは、事業が長期にわたるので、国が前面に立って、引き続き取り組んでいくと。予算と人材は、私は両輪だと考えておりまして、重く受けとめるという話をさせていただきました。

また大川原地区の復興拠点整備にも最大限の支援を行うということ。その他の要望につきましても、真摯に受け承りたいというふうな話をさせていただいたところがございます。

今後とも、被災地の状況、自分の目で確かめながら、被災地の声を丁寧に伺いながら、しっかりと復興を前に進めていきたい、そのような感想を持った訪問でございました。

以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 高木大臣の今回の訪問を終えての所感と、改めて、今後、大熊町の復興について、大臣として、どのような姿勢で当たっていくかお聞かせください。

(答) 仮設住宅を訪問させていただきました。本当に御苦労が多いというのはよくわかりますけれども、その中で、自治会長さんを中心に、非常に住民の方が明るく前向きに生活をしていただいているということを感じました。だからこそ、やはり私たち、しっかりと復興に向けて頑張らなきゃならないという思いをしました。

これから寒くなります。ここは雪も降るわけですから、御苦労多いと思いますけれども、一日も早く帰還をする、あるいはまた、新しい生活ができる、そんなような体制をつくっていかなきゃならないというような思いもさせていただきました。

また、先ほど申し上げましたけれども、まだ少し時間がかかるというふうには言わざるを得ないというふうに思いますが、それこそしっかりと支援して

いくということだと思っておりますが、予算で心配をさせちゃいけませんし、あるいはまた、人材というの、やはり予算が幾らついても人材がなければ、それをやっていけませんから、切実な課題だというふうに受けとめましたので、先ほど申し上げたとおり、予算の人材というものは両輪だというふうに思いますので、両面にわたって、しっかりと支援をして、被災地の方が安心して復興に取り組めるようにしていきたい、そのように感じました。

(問) 先ほど、視察先で大川原地区の復興拠点の早期整備、改めて強く求められましたけれども、これについてはどのような取り組みを考えておられますか。

(答) この間も総理と一緒に大川原地区を拝見させていただきまして、ジオラマ模型を使って町の将来像というものを描くということは、やはり帰還を望んでいる人たちが帰りたいという思いを強くしていくというふうに思いますし、また非常にわかりやすいわけにありますから、自らもそれに向けて頑張っていたでしょうし、また私たちも、まさに町に寄り添って、あれの実現に向けて頑張らなきゃいかんということになることになるというふうに思いますので、大変意義深いものを見せていただきましたし、これからそうした復興拠点の整備に向けて、さらにしっかりと努力、御支援をさせていただきたいという思いでございます。

(問) 先ほど、2つ当面の展望として帰還、若しくは新しい生活が始められるようにとおっしゃいました。

帰還は一つ、整備拠点ができて、夢が見えてきていると思うんですけども、新しい生活を別なところでやろうとしている方に対して、どのような施策が考えられますか。

(答) いろいろな考え方がある、それはもちろん尊重しなければなりません。帰りたくても、やっぱり帰らないという選択をなさることもいるんだと思いますけれども、大事なことは、そのいろいろな思いを、新しい生活をしていこうという人もいらっしゃる、いろいろな思いがある方に、いわゆる何を必要としているのかということをもまさに寄り添って、その人たちのニーズにあわせた形で御支援をしていくということが、やはり大事なんだろうというふうに思っています。

(以 上)